

主な意見要旨と本市の考え方

○御意見者数：58名， 御意見総数：106件

1 策定にあたって（8件）

	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<p>○未来に期待の持てる革新的戦略であると思う。</p> <p>○この取組によって、私たちの生活がより健康的で豊かになるのではと期待するところがとても大きい。</p> <p>○京都市ライフイノベーションの推進に大変重要な戦略だと思う。大いに期待している。</p> <p>○京都市でこのような取組をしているというのは初耳で、国の指針なのではないかというぐらい大がかりなものというのが第一印象。</p> <p>○非常に問題意識にあふれた取組だとは感じる。</p> <p>○何事も継続が大事である。事業を止めることなく進めていただきたい。</p>	8	<p>本市では、平成14年6月に策定した「京都バイオシティ構想」に基づき、ライフサイエンス分野の産学公連携の体制構築やインキュベーション施設の整備、地場資源の活用等による、ライフサイエンス関連産業の創出を進めてまいりましたが、国の“健康寿命の延伸”や“新しい成長産業への取組”等を踏まえ、戦略の趣旨に御賛同いただきました御意見等を参考に、より実践的・効果的な施策を盛り込んだ戦略を策定し、着実に推進することで、京都経済の活性化に繋げて参ります。</p>

2 戦略のイメージ（8件）

	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<p>○「健やかに生活し豊かに老後を送れる社会」については、老後以外の世代についても健やかで豊かな生活を送れる社会を目指すべきと考えるので、特に老後を強調する必要はない。</p>	3	<p>本市におきましても、国と同様、日常的に介護を必要としないで自立した生活ができる期間である“健康寿命”を平均寿命近づけることが課題であり、戦略においても、この“健康寿命の延伸”を大きな柱としていることから、“老後”というキーワードをあえて盛り込んでおります。</p>
2	<p>○京都には多くの学生が集まっているので、ぜひとも優秀な学生が働きたいと思える仕事を作って欲しい。</p> <p>○「若者が地域に夢を持ち活躍できる社会」については、若者に限定する必要はないのではと考える。</p> <p>○京都市内には就職先が少ないため、ベンチャー企業の創出と育成に注力して欲しい。</p> <p>○京都市内には就職先が少ないため、中堅・若手の支援者を取り込んで欲しい。</p> <p>○京都市内には教育機関が数多くあるが、卒業後に地元企業に就職する率は低い。</p>	5	<p>ライフサイエンス分野は新しい成長分野の産業化が見込まれる領域であり、大学・研究機関等と企業等との共同研究等が多数見込めることから、学生の共同研究先企業への就職や、研究成果を基にした大学発ベンチャー等の設立による雇用も期待されています。そこで、戦略では、専門のコーディネーター等による産学連携プロジェクトに向けたマッチング支援、高度分析機器等を活用した技術者育成事業等の推進等を掲げており、地元中小・ベンチャー企業の研究開発の支援と合わせて、若者の雇用の確保にも繋げて参ります。</p>

3 重点的に取り組む分野（23件）

（1）次世代医療分野（6件）

	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<p>○医療機器市場への参入に中小企業が直接出ていくのは難しい面があるので、大企業との連携をもっと促進すべきではないか。</p> <p>○iPS細胞をはじめとした再生医療分野を支える企業（ベンチャー含む）の京都への誘致や連携を積極的に進めてはどうか。</p> <p>○行政や公的支援機関が具体的な産学公支援を行うには、助成金等の獲得が必須なので、獲得への意気込みのような表現を追記されたらどうか。</p> <p>○iPS細胞の研究成果によって人体からのわずかな組織から臓器や細胞を作り出す事ができるようになり、今後新薬の開発や悪性新生物（癌）や難病予防、治療に期待が持てる。</p>	6	<p>戦略では、重点的に取り組む分野として「次世代医療分野」を掲げており、革新的新薬、iPS細胞関連を含めた再生医療技術、先端医療機器等の開発に向けて、「京都市ライフイノベーション創出支援センター（仮称）」による産学連携コーディネート活動を盛り込んでおり、地元中小企業の参画に向けて伴走支援を行うこととしております。また、医薬品、医療機器等の医療技術・製品の確立までは規制や障害も多く、資金及び人的負担も大きいことから、同センターにおいて、中小・ベンチャーと大企業との連携支援や、国の大型プロジェクトの獲得等、研究、開発段階ごとのきめ細やかなサポートを実施して参ります。</p> <p>御意見を踏まえ、以下のように本文を補足しております。</p> <p>11ページの「次世代医療分野振興のポイント」の①において「京都発革新的医療技術研究開発助成事業及び国、京都府等の競争的資金獲得への積極的な支援により、…」</p>

(2) 健康・福祉・介護分野（13件）

	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<p>○健常者のデータ分析から病気になるメカニズムを解析することについては課題も多いと思うが、将来的にライフ分野の革新につながると考える。</p> <p>○製薬会社や健康分野で事業展開している企業の代表者を招き、講習会・勉強会を開催することは、学生にとっては職場研究の参考になるし、学生の本音を聞く機会になると思う。</p> <p>○「大学・企業と介護現場が連携した情報交換の場の設置」は良い考えだと思う。使いやすい介護の機器がでたら、要介護者、介護者にとって、こんな嬉しいことはない。大学・企業が情報交換をして、良い介護機器を作って欲しい。</p> <p>○在宅・施設介護とあるが、全く違った介護の方法であり、京都市としてはどちらを促進するかを明確にすべきではないか。</p> <p>○10年後、20年後の高齢者の医療・介護がどうなるか大変不安に感じる。在宅での日常生活の介護を容易にするような衣類・ツール・支援機器など、身の回りの改善に焦点を当てる取組が進むことを期待する。</p> <p>○健康増進サービスの事業を高齢者が集う様々な場面で実施しているが、京都市としてお墨付きをいただけるような取組があると、もっと販路拡大につながるのをお願いする。</p> <p>○親の介護がいつまでできるか、自分が認知症になるかもしれないなど、介護問題が一番の関心事。自宅で又は馴染みの地区で暮らしていけるような取組をお願いする。</p> <p>○「モデル事業」程度にとどまらず、成果が市民に幅広く影響し、本当に社会福祉費用削減につながるようにして欲しい。</p>	13	<p>戦略では、重点的に取り組む分野として「健康・福祉・介護分野」を掲げており、生活習慣病や認知症等の発病を未然に防ぐため、病気に至る原因を計測・分析・ICT技術等を活用して研究し、常時健康状態が把握できるヘルスケア製品等を開発するなど、病気にならない取組等を盛り込んでおります。中でも介護分野では、業種を問わず興味・関心を持つ企業と在宅・施設などの多様な現場のニーズをつなぐことで、それぞれの現場に合った製品開発や新たなサービス事業等の創出を想定しており、大学・企業と介護現場が連携した情報交換の場の設置や、要介護者・介護者にとって身体的・精神的負担を軽減する介護機器・サービス等の開発を支援することで、生活の質の向上を目指して参ります。また、事業化コーディネーターの支援のもと、商談会や発表会等の販路開拓も積極的に支援して参ります。</p>

(3) 地場資源活性化分野 (4件)

	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<p>○京都の和食の情報発信を積極的に進めていただきたい！</p> <p>○駅伝やマラソンの歴史・文化、プロスポーツチームの存在、世界遺産となった和食を活かすなど、「医療・健康・福祉と運動」「医療・健康・福祉と食・栄養」の観点も盛り込んで欲しい。</p> <p>○一昨年にユネスコの無形文化遺産に和食が登録されたタイミングもあるので、日本酒のみでなく、和食や和菓子の技術を生かした新産業創出も考えられるのではないかと。</p>	4	<p>戦略では、重点的に取り組む分野として「地場資源活性化分野」を掲げており、日本酒等の製造技術の高度化の推進及び国内外のニーズに応じた発酵技術の開発、商品化の促進に取り組むとともに、食品の安全性を担保する計測・分析試薬、機器の開発等に取り組んで参ります。</p> <p>また、ユネスコの無形文化遺産に登録された“和食”については、御意見を踏まえ、以下のように本文を修正しております。</p> <p>12ページの最初の説明文の6行目『…製品開発(福祉・介護機器等を含む)、<u>市場開拓・販路開拓等や、世界的にも注目されている「和食」等の医学的効果を踏まえたサービス事業の開発など</u>、産学公の連携により取組を行う。』</p>

4 ライフイノベーションを引き起こす戦略 (29件)

(1) 戦略(大学等の研究成果の事業化支援)(4件)

	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<p>○技術革新による新事業・新産業の創出に向けた具体的な施策に期待する。</p> <p>○高度医療そのものは大学・研究機関が行うとしても、これを支えるための技術・製品などは、ベンチャー企業など様々な事業者が関与できる分野であり、そのための支援が必要なのではないかと。</p> <p>○大学研究室で勤務する研究員の多くは不安定な雇用条件であり、生活にも困っていると聞く。研究員が長期にわたり研究に打ち込める環境づくりが必要。</p> <p>○京都全体で「ライフ系ベンチャーは京都」というような、雰囲気や環境をもっと醸成してはどうか。</p>	4	<p>大学研究者や中小・ベンチャー企業の研究成果の事業化に向けて、「京都市ライフイノベーション創出支援センター(仮称)」を設置し、産学連携プロジェクトによる革新的な医療技術に関する研究開発活動への支援等を行って参ります。また、事業化に向けた取組として、大学発ベンチャー等の設立支援や国等の研究開発プロジェクト等の獲得に向けた伴走支援等を積極的に行うことで、研究者の研究環境の維持・確保にも努めて参ります。</p>

(2) 戦略（産学連携、産産連携による新事業・新産業の創出支援）（10件）

	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<p>○商品開発を考えるうえで、学生の意見も積極的に取り入れてはどうか。</p> <p>○企業経営者にとって、異業種交流会は、普段気づかない知見が得られ、業務の幅・厚みが増すので是非進めて欲しい。</p>	3	<p>既存技術や既存製品の組み合わせから、新たな技術や製品が生み出されることも想定されることから、異業種の交流については、積極的に進めて参ります。また、産学連携、産産連携により 事業化・産業化に結び付けるため、学生の皆様にも積極的に参加いただける成果発表のシンポジウムや交流会等を開催して参ります。</p>
2	<p>○テーマを設定したコンテスト形式でアワード型の支援手法をとるとか、地域特化のクラウドソーシングを運営するとか、ソフトウェア産業向きの支援策を盛り込めれば、産業創出効果が期待できる。</p>	2	<p>事業化・商品化に向けた共同研究・開発体制を構築するため、産学連携、産産連携のコーディネートを実施するとともに、早期に製品・サービス等の市場への投入ができるよう伴走支援を行って参ります。また、御提案の内容については、クラウドビジネスを対象に実施している既存の取組との連動の中で検討して参ります。</p>
3	<p>○大学等研究成果を起点とする事業化も大事だが、医療・介護等のライフ事業においては、未充足ニーズを組織的・積極的に発掘して対応する事業化の方が、早い段階の産業振興に結びつくのではないかと。</p> <p>○新たな機器を開発するためのニーズを探るコーディネーターに現場に行ってもらい、意見交換してもらえれば良い循環を期待する。</p> <p>○事業化コーディネーターも重要な役割を持つ。適任者の選定が計画実現を左右すると思う。</p>	5	<p>大学及び中小・ベンチャー企業等のシーズ、ニーズ等の交流を図り、産学連携や産産連携に繋げるコーディネートに加え、事業化コーディネーターを新たに配置し、大学及び中小・ベンチャー企業等の優れた技術・機器等を事業化・製品化するための伴走支援を行うとともに、大学・企業等との連携のもと、特許取得や販路開拓のほか、技術移転や特許譲渡等の支援も行って参ります。</p>

(3) 戦略（中小・ベンチャー企業の技術の高度化支援・技術者育成支援・ネットワーク化）（5件）

	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<p>○ライフサイエンス分野の技術者を活用するに当たり、どのような技術が今求められているかがわかる情報を常に発信し、やる気のある人材が適確な職場で活かされるようなスキームを作って頂きたい。</p> <p>○ライフサイエンス分野への進出は、ものづくり中小企業にとって、非常にハードルが高いので、大学の医学部等とのきめ細かい連携支援をお願いしたい。</p> <p>○京都の企業が大企業だけでなく、中小企業も元気になれるようなものにして頂きたい。</p>	5	<p>中小企業のライフ分野への参画に向けて、京都バイオ計測センターに設置した高度研究機器等を活用する技術者等を対象とした育成事業に取り組むとともに、京都市産業技術研究所及び京都高度技術研究所のコーディネートのもと、技術情報や大学の先端研究の情報収集を行い、大学や他の研究機関、ベンチャー・中小企業等との共同研究や事業化、製品開発等、きめ細かく支援して参ります。</p>

(4) 戦略（公的機関等の充実と企業立地支援の推進）（5件）

	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<p>○ライフイノベーションを推進するために、どのような企業をターゲットに市内に立地させようとしているのか。</p> <p>○産業化や企業誘致では大阪・神戸に水をあけられている感があるので、連携を推進し、エコシステムの構築を図ってはどうか。</p> <p>○京都市に新しいバイオ産業が増えてくるような仕組みや支援機関の充実をお願いします。</p>	5	<p>京都には、京都大学や京都府立医科大学等の臨床研究機能を持つ大学をはじめ、工学・自然科学等を含むライフサイエンス分野の研究機能を持つ大学等が集積しているとともに、独自の技術を持つ企業も集積しております。この京都の強みを活かしたライフサイエンス産業の振興を進めるため、京都市産業技術研究所及び京都高度技術研究所にとどまらず、オール京都体制での連携、支援機能を更に強化いたします。また、大学や企業等と共同研究等を求める企業の立地に向けて、本市が実施する企業立地促進制度をはじめとする施策等の活用を図り、本社、開発拠点、研究所等の新規立地や移転等により、事業の拡大を支援して参ります。</p>

(5) 戦略（グローバル展開の支援）（5件）

	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<p>○中小企業が、大手企業やグローバル企業と組める仕組み(場, 人材交流)を提供できるようにして欲しい。</p> <p>○京都の中小企業・ベンチャー企業から海外のベンチャー企業集積地(シリコンバレー, ボストン等)への人材交流を行い、グローバルな人材を育成して欲しい。</p> <p>○介護を支援する器具や装置, 医療・介護施設についての海外先進国の情報をもっと集めることや, 海外企業による事業の誘致なども考えてはどうか。</p>	5	<p>KRP地区内に設置されたジェトロ京都事務所や京都高度技術研究所に配置している海外進出に関するコーディネーターとも連携して、海外での情報を収集するとともに、海外市場での事業展開に意欲を持つ事業者が、現地でのネットワーク構築や販路開拓を実現できるよう取組を進めて参ります。また、京都の大学や企業、支援機関等との連携をを求める海外を含む大学・研究機関、企業等の集積に向けても積極的に働きかけ、国際的な技術開発、製品開発等についても、促進して参ります。</p>

5 成果指標（8件）

	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<p>○成果指標の「雇用」は一時的な瞬間最大数的な雇用にならない様な指標に変えるべき。</p> <p>○成果指標の「認定企業」や「プロジェクト数」は、その数がこの戦略の目標ではないので、「認定されてから1～数年後に〇〇な企業」とか、もっと先に目標をおくべき。</p> <p>○成果を定めることの難しさもわかるが、たとえば、その成果は、市内にもたらされる結果が伴うものでないといけないのか。</p>	8	<p>戦略は、平成27年度～32年度の6年間の計画であり、当該6年間における施策の方向性に応じた成果指標として、「ライフサイエンス分野の技術者育成数」、「ベンチャー企業目利き委員会Aランク認定企業及びオスカー認定企業、知恵創出“目の輝き”認定企業、ファンド獲得企業数」、「プロジェクト創出数」、「企業立地数」等を掲げており、各種取組を通じ、一時的な成果にとどまらない継続的なライフサイエンス産業の振興を図って参ります。</p>

6 推進に向けた実施体制（11件）

	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<p>○大変素晴らしい計画で、実現を大いに期待している。ただこれだけのスキームをまとめるにはトップに相当なリーダーシップを持った人材が必要と思う。ぜひ適任者の選定をよろしく願います。</p> <p>○京都府もライフ関係の計画を進めており、二重行政解消のためにも、戦略の中にもっと京都府と連携して進めていく項目を入れるべきである。</p> <p>○関西広域連合の中で、大阪、神戸等の区別を出して欲しい。京都が担う役割とは何かを打ち出して頂きたい。</p> <p>○京都市のみでの産業振興というのは難しいところがあるのではないかと。横のつながりも必要では。</p> <p>○同じ京都市が作るものなので、保健福祉局とどう連携していく（相乗効果も）のかを示して欲しい。</p>	11	<p>ライフサイエンス分野の取組に関しては、ネットワーク会議の定期的開催など、これまでから、京都府・市連携で取組を行っており、過日の東京での商談会についても協力体制を進めております。</p> <p>今後、京都が優れた研究成果を持つ大学、独自の技術を持つ企業等が集積する京都の強みを最大限生かせるよう、オール京都体制で、国に対し必要な施策と予算を提案するとともに、医療研究機関、関西広域連合、京都府などの行政や団体、本市保健福祉局、大学及び産業支援機関等と連携しながら、効果的かつ効率的な支援を実施して参ります。</p> <p>また、御意見を踏まえまして、<u>2ページの『本推進戦略の位置付け』の図に、本市保健福祉局プランとの相互連携の内容を追加しております。</u></p>

7 その他（19件）

	御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<p>○戦略を読んで見ましたが、これがどう産業振興になるのか、よく理解できない。</p> <p>○医療、介護、すべてにおいて人間に関わるところで有り、慎重な事業遂行が必要なのは理解できるが、市民、事業者は理解してくれるのか。</p> <p>○有識者の方々も学識豊かな方々が揃っていると思う。しかしながら、市民に伝わるのか。</p> <p>○先端的な医療から介護まで広く網羅しているようでもあり、広く浅く万遍なくという印象もある。施行に際しては、もっと絞って一般市民にもわかりやすい部分があってもよいのでは。</p> <p>○内容が専門的な言葉、施設名が多数出てきていて、とても分かりにくい。完成時には、写真や絵、用語の解説を付けていただいて、皆にイメージしやすく、わかりやすい物にしてください。</p> <p>○スケールが大きく素晴らしい戦略だと思うが、文字ばかりでイメージしにくい。</p> <p>用語や施設を丁寧に写真や絵を多用して紹介し、もっとそれぞれの価値を高めるようにすると、市民に理解しやすくなるのではないか。</p>	19	<p>戦略の内容・記述につきましては、ライフサイエンス産業の振興等に取り組むものであり、専門的な記述とならざるを得ない場合がありますが、御意見を踏まえて、6ページの「医学と工学の融合分野」及び15ページの戦略I「概要説明」に記載されている「地域COE」について、下線部を追加しております。</p> <p>「<u>産学公連携拠点（地域COE）</u>」</p> <p>また、<u>16ページ、17ページ、19ページ、20ページに『産業の創出・成果を解説するコラムや、活用する機器等の写真、図表など』を盛り込むとともに、19ページ、21ページ、22ページに戦略に関する写真を掲載するなど、できるだけ分かりやすい記述と内容の周知に努めて参ります。</u></p>